

玉川上水・野の花だより No. 28

サギソウ

中央大学研究開発機構・機構教授 東京大学名誉教授

石川 幹子

2026年 7月12日

2026年4月3日にスタートした「野の花プロジェクト」は、大都会の中に武蔵野の生物多様性を再生させると共に、江戸期に開花した日本の誇る園芸文化を継承していくことを目標としています。ここでご紹介するサギソウは、おそらく、その本流となる野の花であると思います。

サギソウは、ラン科の植物で、学名は、*Pecteilis radiata* (Thunb.) Raf. *Pecteilis*は櫛の歯状、*radiata*は螺旋形を意味し、ツンベルクが名付けたものです。全国の湿地に自生し、7月頃、茎を高く伸ばし、先端近くに、1～3輪の白い花をつけます。花は、3cmほどの小さなものですが、深く3つに分かれ、両側の花弁は扇形で、縁辺部が細かく糸状に分かれます。中央部はとがった形をしており、この姿が、シラサギに似ていることから、この名前がつけられました。

その高貴な姿から、園芸用の野草として育てられてきました。湿地が減少するなかで、環境省準絶滅危惧種に指定されています。皆様に、身近でご覧にいたく、大山緑道に、仲間入り致しました。子どもたちに見せてあげたいですね。つぼみがついていますので、しばらく、楽しむことができると思います。



サギソウ 2026年 7月9日 大山緑道